

---

# 休日の朝に手紙

藤波 咲

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

休日の朝に手紙

### 【Nコード】

N5066I

### 【作者名】

藤波 咲

### 【あらすじ】

消えていく思い出消えない思い出、”消せない思い出”……それは誰しもが抱えるモノ。貴方が抱えるのはどんな思い出ですか。その中に、”消せない思い出”はありますか

カーテンを開けると太陽はもう結構高くまで上がっていた。  
クロワッサンと缶コーヒードで軽い朝食を済ませた後、煙草に火をつける。

久々に彼女の夢を見た。

その頃、僕はまだ16歳で彼女は19歳だった。

ちょっとしたきっかけで知り合った彼女はとても不思議な子だった。  
全てを愛しているように見えれば、全てに興味がないようにも見える、そういう子だった。

けれどそれこそが彼女の魅力だった。

事実僕は彼女のそういった部分に興味を持って関わっていたのだから。

でも今考えれば、それこそが彼女の悩みだったのかもしれない。

「私は私のことが一番わからないのよ。そして自分にわからないことなど他の誰にもわかりえないわ。」

そんな風に言っていたことがあった。今の僕になら何か言っておけられたのかもしれないけれど、少なくともその頃の僕にはその言葉の意味すらわからなかった。

それでも僕は彼女と居るのが楽しかった。彼女も楽しいと言ってくれていた。それはきつと本音だったんだと思う。

会ってもただ公園のベンチに座って通り行く人々を眺めているだけのことだってあったし、殆ど会話すらしないことの方が多かったけ

れど、僕は街中で抱き合ったりしているカップルなんかよりは  
ずっと深い仲にあったと思う。そう、思いたい。

別に恋人という訳ではなかった。友達というのも、また少し違う。  
すごく微妙な関係だったのだけれど、僕も彼女も形式なんかには拘  
らなかった。

ただ気が向いた時に会っただけの関係。そこには会話も触れ合いも必  
要ない。本当にただ会っただけでよかった。

それなのに、彼女はある日突然姿を消した。

いつものように、ふと思いついて彼女に連絡を取ろうとしたら一切  
連絡がつかない。

それは何日経っても変わらず、さすがに心配になった僕は彼女の実  
家に向かうことにした。

けれど、彼女の消息を知る人は誰もいなかった。彼女は誰にも何も  
言わずに、消えてしまったのだ。

恋人でも友達でもない人がいなくなった。

それは一見大したことのないように思えるが、僕は酷く淋しい気持  
ちになった。

失くしてはいけない自分の一部を失ってしまったような。

彼女が姿を消してから数日後、僕のところに彼女からの手紙が届い  
た。

『突然いなくなったりしてごめんなさい。なんて言っても、もしか  
したら気付いていないかもしれません。』

本当はこんな手紙も書くつもりはなかったのだけれど、どうしても  
伝えたい事があったので書くことにしました。

恋人とも、友達とも言えない関係でしたが、私にとって貴方はとても大切な人でした。

それは貴方にとっても同じである事を願います。

そしてもし同じであつたなら、一つだけお願いがあります。

この先貴方がどう生きようとも、どんな幸せを見つけようとも、時々でいいからこの手紙を読んで私を思い出して下さい。

私がこの世界に存在していた、という事実を貴方の心から消さないでください。

貴方が忘れてしまったら、私が存在していたということさえなかったことになってしまうような気がするんです。

だから、忘れないでください。それだけが私の願いです。』

この手紙が届いてから一か月ほどして、彼女の遺体は発見された。

そしてそれから既に5年が経っている。今では僕の方があの頃の彼女より年上だ。

「それでも、まだ約束は守られているよ。」

誰にも聞こえない、独り言とすら言えない程度の声でつぶやいた。それは彼女にだけ聞こえればよかった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5066i/>

---

休日の朝に手紙

2011年1月16日09時58分発行